

藤沢

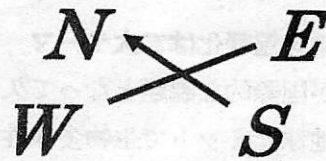
エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2011年3月1日

第202号



- 主 題
- ・磯の自然観察にでかけましょう
- な ん
- ・武田薬品研究所竣工式 見学会で門前宣伝
- 記 事
- ・環境問題とメディアの役割
 - ・地元農業とTPP参加反対の意見書採択

<http://comcom.jca.apc.org/econet/>

事務局 〒252-0816 藤沢市遠藤 849-9 青柳

☎/FAX 0466-87-4922

e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp

「TPP参加に反対する意見書の提出」を今市議会で採択

2月6日「地元農業を考える会」が開催され、この会の創始者である浅井まり子氏のあいさつでは「最初は農業を知らなかったが、それぞれの人との関わりの中で大切さが分かった。食べる側は無頓着で、作る側の苦勞を知らない。」と話されました。この催しが31回で、今年限りで終止符を打つというもので、とても残念です。各地に地産地消を広めて行けるようになったことで会の目標が達成されたこと、メンバーの高齢化などが理由でした。それぞれの地域で仲間を作りたい、作る苦勞の生産者と知り合えたこと、食を通じて元気でいられるようにと。

「地産地消の現場からの報告」では ①藤沢市農水課長石垣邦夫氏による報告で、農家の減少、経営耕地面積の減少、放棄地などの詳しいデータを説明、野菜等の出荷量の説明があり、トマトやブドウは県内でも1位、2位の量であることが報告されました。

②亀井利貞氏（農家）は、土作りから生産量を上げ、後継者を増やしたいと語りました。

③菊池達也氏は市と農協が開設した「わいわい市（六会地区の国道沿いにできた）」の責任者になり、バブル崩壊期を経験したなかで流通と価格について述べ「腹で食べ、口で食べ、目で食べ、心で食べる」を合い言葉に良い食をつくって行くために、大切に作ったものは大切に食べようと話しました。

④新藤ハル氏は消費者の立場で食生活研究会と出会い「見た目ではなく安全安心な食べものを求め、生産者とのつながりで単なる物の売り買いでなく、自然を大切にしていけることで共生していることがこの運動が長く続いた」と述べました。

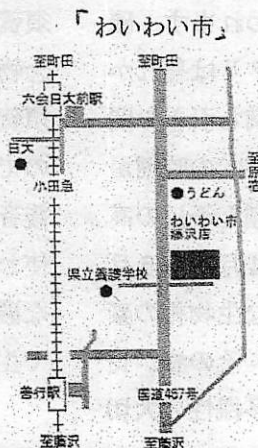
今国会で問題になっているTPP（環太平洋連携会議）参加は日本の農作物の自給率を減らし、農家の経営が成り立たなくなる大問題であること。子どもの頃から生活の中にホンモノを見分け、家族として食から健康を取り入れて料理することの大切さを教えて欲しいとの発言もありました。

「わいわい市」は近くの生産者が作ったが新鮮で安心な野菜などを消費者が直接手に入れることができ六会、御所見（ごしょみーな）にあるが、全地区でこのような場所が広がっていくことが望ましく、これからも期待されます。

TPP参加に、2月藤沢市議会建設常任委員会で反対の立場で国に対し意見書を提出してほしいという陳情を採択したのは、市民が動き、市議会が受け止めて、たいへん心強いことだと思います。

(日比 遥)

(低炭素都市ふじさわをめざして)



オオイヌフグリ（春の道端によく見られるヨーロッパ原産の帰化植物）

磯の自然観察にでかけましょう！

生物多様性と地球温暖化は二大テーマ

生物多様性が国際的な課題となって久しい。リオデジャネイロの地球サミットで生物多様性条約が採択されたのは1992年6月のことでした。地球上に300万種ともいわれる生物の生息と自然環境・生態系を守ることは、人類の生存に欠かせないこととして、生物多様性の重要性が増大しているのを感じます。生物多様性条約は地球温暖化防止のための気候変動枠組み条約と合わせて双子の条約と呼ばれています。2010年10月には、名古屋市で国連生物多様性条約第10回締結国会議(COP10=名古屋会議)が開かれ、遺伝資源の利用と利益配分などが議論されました。また、地球上の7割を占める海洋は陸上に比べて保護区設定が遅れ乱獲が進んでいます。海洋保護区は、全海域の1%にとどまり、陸地では12%であるのに比べて見劣りするといえます。

磯は生物の博物館、

生物の種類は陸上に劣らない

自然保護を想うとき、海のいきもの、なかでも磯の生物に注目すべきだと思います。

40億年の昔、地球上の生命は海で生まれ、長い歴史の中でしだいに複雑化し、多様化し、やがて陸上にまで生活の舞台を広げたが、多様な生物グループの多くは、今も海中生活にとどまっています。

磯の生物は、普段水面下で生活しているため、目に触れることが少ないのですが、ノリ、ワカメなどの海藻、サザエ、アワビなどの貝類、エビ、カニやウニ、魚類など沢山の種類の命が、お互いにかかわり合いを保ちながら生態系をつくってくらしています。

自然保護は自然愛好から始まるとも言われます。磯の春は、陸上よりも早く、岩ノリやハバノリは暮れから正月の冬季に繁茂します。また、潮の満ち引きの関係から、相模湾では、早春から初夏にかけての時期が磯の観察に適しています。季節により満潮と干潮の高低差は2メートルを超えることがあり、4月から5月の大潮の干潮時、水面下から現れた豊富な生物相の素晴らしい景色を一度でも目にした人には、その姿が長い間記憶に残るでしょう。そして、生物多様性の大切

藤沢エコネットニュース第202号

(低炭素都市ふじさわをめざして)

さを肌で感じることはできません。

磯の生物にも、海洋汚染で

貝類の不妊化が進行

2000年頃にTBT(トリブチルスズ)などの有機スズ化合物の汚染に関係した調査に協力したことがありました。有機スズ化合物は、フジツボ、ムラサキイガイや海藻といった海洋生物の付着を防止するために、船の底や海中構造物に塗る塗料やハマチの養殖に使う生簀の網に塗る魚網防汚剤の原料です。付着物が船底に沢山つくとその抵抗によって船足が遅くなるのです。

ところが、海水中に溶け出した有機スズ化合物によってイボニシなど海の巻貝類の不妊化が進んで問題になったのです。

イボニシは、フジツボや魚などを食べて有機スズ化合物が体内に蓄積されます。その結果、メス貝がオス化し、不妊が起きて絶滅が心配されたのです。1990年には、日本造船工業会の自主規制が行なわれるようになりましたが、日本の船が海外で有機スズ塗料を塗ってくることにについては何の規制もなかったのです。実態把握のためのイボニシの採取が行なわれ、南伊豆の磯をボートで回ったり、葉山長者が崎の磯を歩いて、初夏産卵期のイボニシを集めました。

藤沢周辺の海は、磯の生物相の宝庫

藤沢は周辺を含めると、江ノ島の磯をはじめ生物相の豊かな磯が沢山あります。

葉山柴崎の磯は、普段入り口のところが通り難いが、春の大潮のころには、誰にでも入れる広大な磯が姿を現します。昭和天皇の生物研究のフィールドであったためか葉山町から天然記念物に指定されており、生物が保護されています。葉山御用邸の砂浜に陸続きの小磯は近づきやすく楽しく観察会ができる場所です。横須賀天神島臨海自然教育園は、神奈川県指定天然記念物に指定され生態系が丁寧に保護されています。横須賀市自然・人文博物館で主催する観察会も開かれるので、磯の生物を勉強するには大変貴重な場所です。観音崎たたら浜は、観音崎自然博物館の教育行事にも使われる素晴らしい環境です。その他にも、個性豊かな磯が沢山あり、もっともっと自然保護の規制を広げて生態系の保護を深めていきたいものと願っています。

(渡辺 誠)

環境問題とメディアの役割

「チュニジア・エジプトの大統領を退陣させて反政府デモの大波は中東、北アフリカ全域14カ国に広がり、ついにリビアでは内戦状態に突入している…反政府行動で市民の大きな情報共有手段になったインターネットメディア（ソーシャルネットワーキング・サービスサイト＝SNS）は、今後さまざまな問題への認識・共感・支援の輪を、特に若い世代に広げる手段として 期待すべき画期的なメディアです」と分析する細川正博氏（前学研編集担当取締役＝現エディターズスクール講師）に話を聞きました。

(1) インターネットメディア＝SNS

SNSは編集者など情報の送り手が作るホームページ（HP）とは違い、情報の送り手と受け手の垣根がないユーザー交流サイトで誰でも参加できるブログやツイッター、会員制のミクシィ、フェイスブックなどがあります。（ちなみにフェイスブックの誕生秘話をテーマにした映画「ソーシャル・ネットワーク」は今年度の米ゴールデン・グローブ賞受賞）

ただしSNSサイトは誰でも参加可能という点で情報の未分明で玉石混交の弱点も持っている。しかし一国の政権をわずかの時間で変えてしまう力を持っていることは事実です。

(2) マスコミュニケーション（報道メディア）

「環境問題を深く調べ幅広い意見に耳を傾け自主、自律的な判断と表現で市民のために発信する」ことですがメディアの対象や目的によって違いが出てきます。

既存のいわゆる“マスメディア”は、「地球温暖化」など大きな環境問題には熱心ですが、身近な地域の環境問題や特定の企業に関わる問題では、その役割を放棄する傾向があります。メディア企業自身、マスの読者・視聴者獲得と広告収入を経営の2本柱にしているからです。そもそもメディア（媒体）という呼び名は広告業界で使われ始めたもので、ジャーナリズムの世界ではマスコミ（ユニケーション＝報道・情報伝達）といったはずですが。しかし公害報道の原点と言われる

「水俣問題」や製薬企業に関わる「薬害エイズ問題」など、既存メディアが社会のために果たした役割は大きく、これからもメディア企業の中の、個々のジャーナリストたちの正義感と勇氣に期待しなければなら

藤沢エコネットニュース202号



中東・北アフリカの民主化を求める動きは、たった2人から始まった反政府運動は独裁政権を瞬間に崩壊させてインターネットメディアの果たした役割は大きく、北朝鮮、中国でも戦々恐々とネット規制に動き始めた

ないことはもちろんです。

(3) PR（パブリック・リレーション）メディア

身近な地域の問題や特定の目的を持った活動情報をより多くの人々に伝え、問題への認識・共感・支援の輪を広げるためにはむしろPRメディアの存在が大きく、その重要性を再認識する必要があります。

「様々な団体が活動内容や主張を広く大衆に伝えて、信頼と目的に沿った行動を得ようとする活動」です。その意味で『エコネットニュース』はPRメディアに当たります。

PRが単なる商品説明、広告と誤解されるのは「メディア」が広告媒体と思われるのと同じで経済至上主義の悪弊です。

PRメディアをより充実させるには、問題に直面する当事者間の情報交換に止まらず、当事者の声高ではない主張や間接的な支援者・専門家などの意見を掲載して、未知の読者に問題のありようを正確に伝え地域の環境問題を大きな社会問題につなげるような一般化・普遍化の努力が必要です。

様々な情報が多量に出まわり過ぎている現在、その情報を正しく読み取ることや、批判的に読みとった上で、自らの考えをそのメディアを使って表現し、社会に向けて効果的にコミュニケーションをはかることが要求されている時代でもあります。

以上、細川正博氏の「メディア・リテラシー」の話から構成いたしました。（鶴沼在住 国枝 健）

（参考資料）岩波新書・（メディア・リテラシー）
毎日新聞・ASAHI SHINBUN GLOVE
のメディア最前線」

武田薬品竣工式・見学会で門前宣伝

2月19日は武田薬品湘南研究所の竣工式でした。10階建て床面積31万平方メートルあり、約2000人規模で、長谷川社長は世界最大の研究所と述べ、松沢知事は村岡新駅づくりに取り組むと言ったといひます。正門前では市民30数人が「市民参加の安全協議会を設置せよ!」と横断幕を掲げて宣伝要請行動をしました。

20日の見学会は5000人もの方が訪れました。門前でのチラシ撒きは1時間半で1000枚がなくなりました。さすが、世界1規模の研究所です。この大企業なら間違いないと一般の人は思うのでしょうか。

正門近くの事務棟と2つの実験室、食堂などを見学しました。動物実験棟は見学できませんでした。事務棟には80人が入れる保育室があり、他に展示コーナーや大講堂があり、歴史映像や写真、模型展示をしていました。

生化学実験室と合成実験室を見学したのですが、お粗末な排水、排気処理には本当にがっかりしました。実験室(P1, P2実験室)ではフィルター付きの安全キャビネットを使いますが、部屋の空気は何もフィルターを通さず、普通の空調をしているだけだそうです。有害化学物質等扱う実験室の排気は、屋上で活性炭を用いて吸着、スクラバーで洗浄後、排気されるとの事ですが確かめる事はできませんでした。HEPA フィルターが付く P3 実験室は100平方メートルと広く、2室あるとの事ですが見せてくれませんでした。

排水については、有害な有機溶剤を流しの脇の容器に研究者が分別して入れ、2、3回ゆすいで分別し、あとは流しで洗い流すとの事です。流しには当然有害なものが若干流れると思いますが、何も処理せず、中継槽などで簡単な常時水質検査(温度、PH、炭素の量)をするのみで、公共下水道へ流すのです。薄めればよいというものではありません。ヒューマンエラーもあり得ます。

3階の数百人でにぎわう大食堂を通り、1階の駐車場兼車道の長い道を歩いて出口へでました。階段や通路なども広く、順路と書いていなければ迷子になるほどの広さでした。

3月中旬から実験動物も試験的に飼い、3月下旬ごろから研究者がグループごとに引っ越してきて、10月頃本格稼働するとの事です。安全・安心な稼働は市民参加の協議会がなければ、実現できないと感じる見学会でした。(青柳節子)

ECONET INFORMATION

== 無添加を疑え ==

3月29日(火) 13:30~ 市役所7F第7会議室
講演「健康な体ときれいな水を守る」

講師 森田隼人氏(シャボン玉石けん社長)

問合せ 藤沢市石けん推進協議会

申込み faxで 0466-81-3219へ



映画 「祝(ほうり)の島」

海を愛する者、海を大切に想う者として、海に生きる

私たちに道しるべを与えてくれる島の人々の出会い

3月6日(日) 19:30~ 葉山「海人市場」

3月8日(火) 19:30~ パパラギ町田店

費用 1500円

主催 NPO パパラギ海と自然の教室 TEL0466-26-6101

講演「自然共生社会と豊かな暮らし」

講師 武内和彦氏(東大大学院農学生命科学研究科教授)

とき 3月6日(日) 14:00 藤沢リラホール

無料

(藤沢駅南口3分)

主催/問い合わせ 藤沢自治研究センター 0466-23-5711

「大地はダイナミックに動くものだ」見学会

3月2日と10日 9:30 片瀬江ノ島駅集合

講師 松島義章氏 竜口寺境内3カ所を特別に見学

参加費 1000円 申込み: 046-222-2356

共催 神奈川県自然保護協会 川名フォーラム

藤沢エコネットからのお知らせ

会員募集 会費 3000円

事務局会議 3月16日(水) 14:00~

市民活動推進センター

《編集後記》2月19日開催されたエコネットニュース200号記念レセプションには約40名の方々が参加され、記念講演とささやかな懇親会を開くことができました。出席できない方からも激励のお手紙を頂きました。ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。300号に向け早速走り出したニュースに、情報提供等ご協力頂き、末長く育てて頂けますようお願い致します(A)